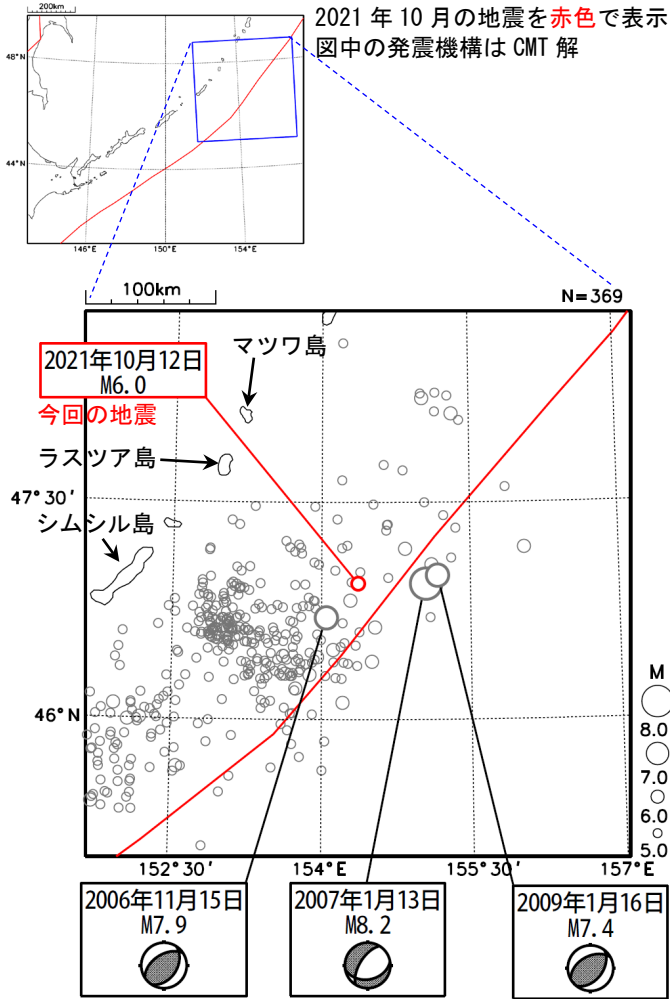


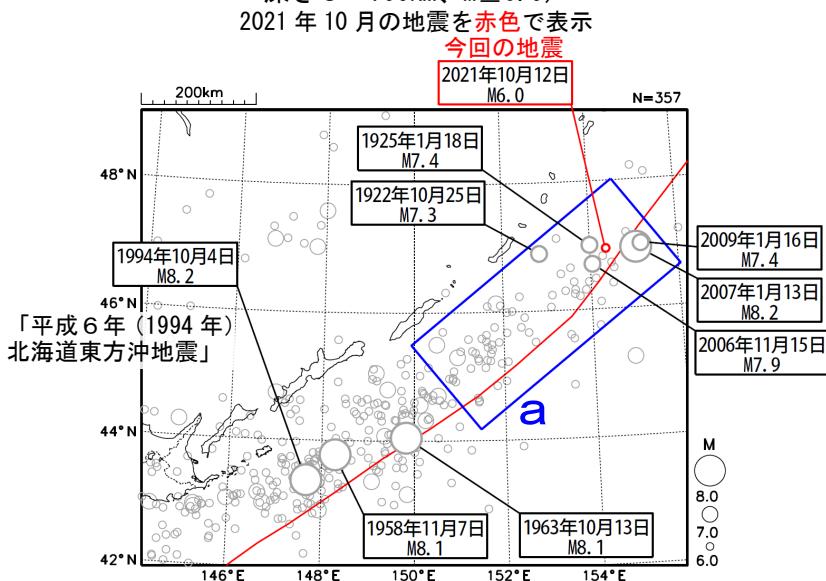
10月12日 北西太平洋（千島列島付近）の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2021年10月31日、
深さ0～700km、 $M \geq 5.0$)



赤色の実線は Bird, P. (2003) によるプレート境界

震央分布図
(1919年1月1日～2021年10月31日、
深さ0～700km、 $M \geq 6.0$)



赤色の実線は Bird, P. (2003) によるプレート境界

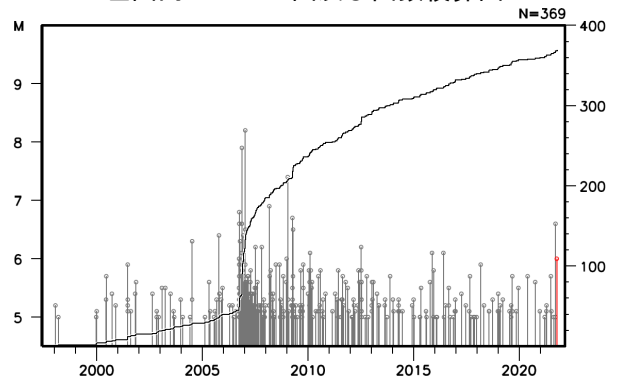
* 参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

2021年10月12日08時10分に北西太平洋でM6.0の地震(国内で震度1以上を観測した地点はなし)が発生した。

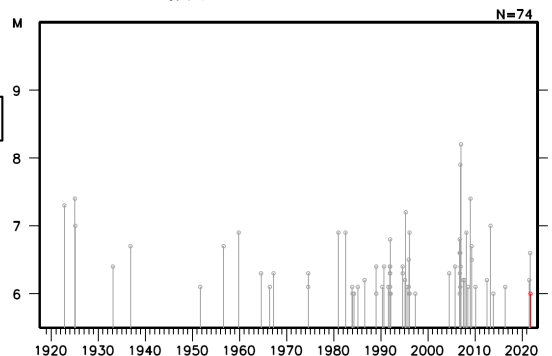
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近では、今回の地震の他にM6.0以上の地震が時々発生している。2006年11月15日に発生したM7.9の地震では、日本国内で震度2の揺れを観測したほか、三宅島坪田で84cmなど、オホーツク海沿岸から太平洋沿岸及び伊豆・小笠原諸島の広い範囲で津波を観測した。その約2か月後に発生した2007年1月13日の千島列島東方(シムシル島東方沖)の地震(M8.2)では、三宅島坪田で43cmなど、北海道日本海沿岸北部からオホーツク海沿岸、太平洋沿岸及び伊豆・小笠原諸島で津波を観測した。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域a)では、M7.0以上の地震が時々発生している。

左図内のM-T図及び回数積算図



領域a内のM-T図

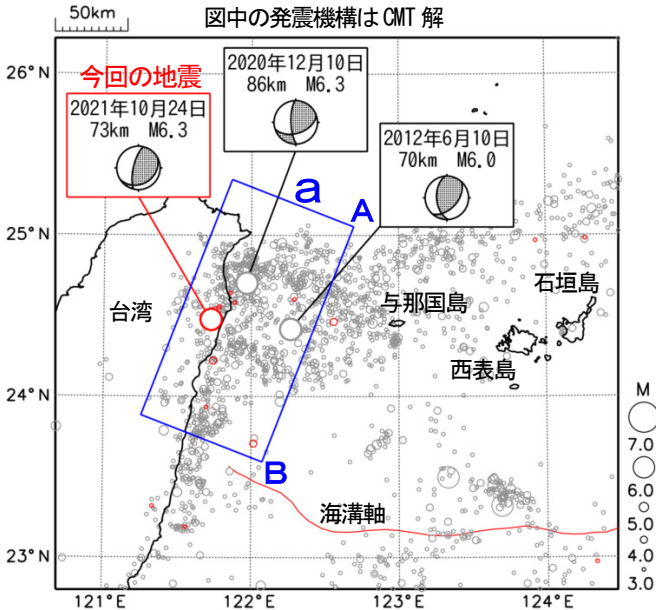


10月24日 台湾付近の地震

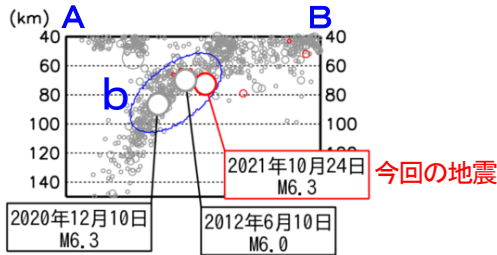
震央分布図

(2009年9月1日~2021年10月31日、
深さ40~150km、 $M \geq 3.0$)
2021年10月の地震を赤く表示

図中の発震機構はCMT解

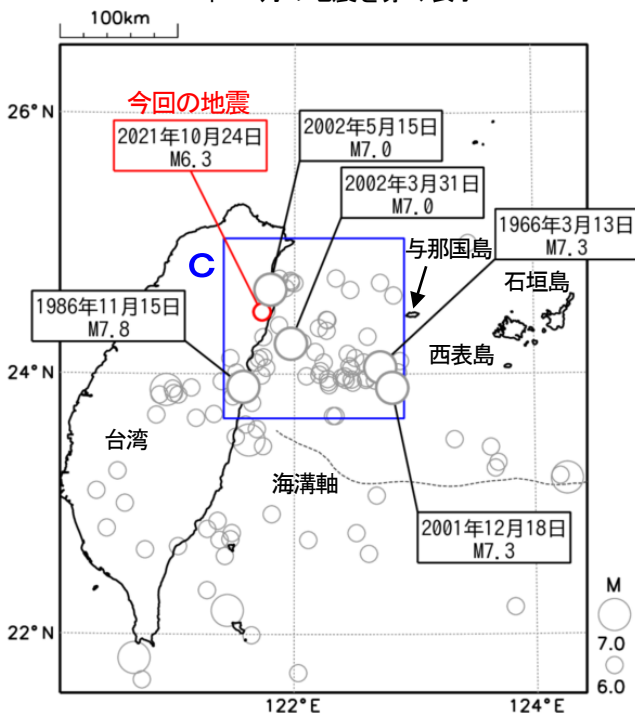


領域a内の断面図 (A-B投影)



震央分布図

(1960年1月1日~2021年10月31日、
深さ0~100km、 $M \geq 6.0$)
2021年10月の地震を赤く表示

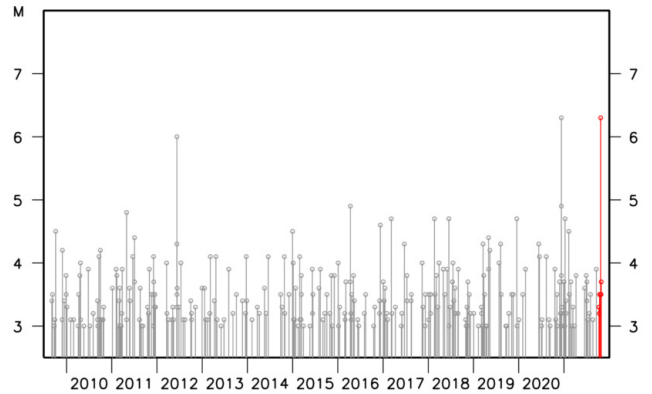


1986年11月15日の地震の震源要素は米国地質調査所 (USGS) による。その他の震源要素は気象庁による。

2021年10月24日14時11分に台湾付近の深さ73kmでM6.3の地震（日本国内で観測された最大の揺れは震度2）が発生した。この地震はフィリピン海プレート内部で発生した。発震機構（CMT解）は、西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

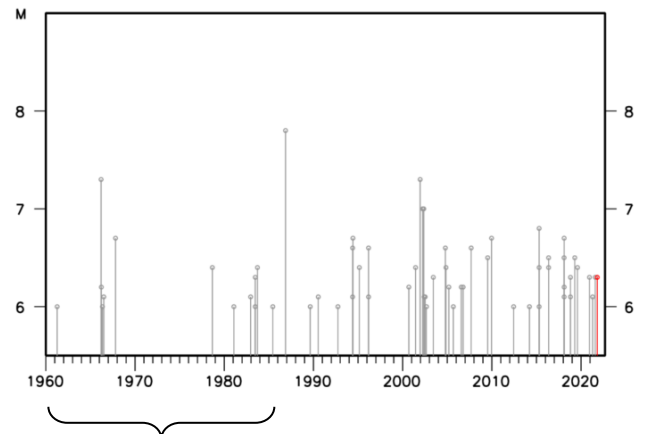
2009年9月以降の活動をみると、この地震の震源付近（領域b）では、2012年6月10日にM6.0の地震（日本国内で観測された最大の揺れは震度3）が発生するなど、M5.0以上の地震が時々発生している。

領域b内のM-T図



1960年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、1986年11月15日にM7.8の地震（日本国内で観測された最大の揺れは震度3）が発生した。この地震により、宮古島平良で30cmの津波を観測した。また、1966年3月13日のM7.3の地震では、与那国島で死者2人や家屋の全半壊等の被害が発生した（被害は、「日本被害地震総覧」による）。

領域c内のM-T図



(この期間は検知能力が低い)

気象庁作成